

	書名	読んだ人数	トータル	平均
1	銃・病原菌・鉄 上・下	6	22	3.666667
2	文明崩壊 上・下 - 滅亡と存続の命運を分けるもの	12	44	3.666667
3	古代文明と気候大変動	3	9	3
4	歴史を変えた気候大変動	6	18	3
5	5000年前の男	16	46	2.875
6	ローマ人の物語ハンニバル戦記 上・中・下	17	75	4.411765
7	ローマ世界の終焉	0	0	0
8	地中海世界とローマ帝国	1	3	3
9	「生き方」の中国史	9	24	2.666667
10	天翔るシンボルたち - 幻想動物の文化誌	10	25	2.5
11	王を殺した豚王が愛した象	10	36	3.6
12	縞模様の歴史	8	19	2.375
13	絵で見るパリモードの歴史	12	35	2.916667
14	中世ヨーロッパの都市の生活	16	41	2.5625
15	決闘裁判世界を変えた法廷スキャンダル	14	52	3.714286
16	鉄腕ゲッツ行状記 - ある盗賊騎士の回想録	5	18	3.6
17	数量化革命	23	81	3.521739
18	「世界地図」の誕生	10	29	2.9
19	1491先コロンブス期アメリカ大陸をめぐる新発見	4	7	1.75
20	砂糖の世界史	19	61	3.210526

銃・病原菌・鉄 上・下

著者名	ジャレド・ダイア モンド	発行年	2000年
出版社名	草思社	ページ数	619ページ
値段	3,800円	ISDN	978-4794210050

人類の文明の始まりを地球規模でとらえるという大技をみごとに成功させた記念碑的達成。
大陸がタテに長い横に長い、そんな小さな偶然が人類の発展史の根幹を定める！ あざやかな洞察。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ ()分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
みずち	上16-45,233-317	動物の話はやっぱ面白いです。とりあえず「アンナ・カレーニナの法則」とシマウマが家畜にできない理由がすごい興味深かったので9章だけでも読んでみてはいかがでしょう？シマウマって愛玩動物みたいだけど実はとってもすごい動物なんだって再発見できますから・・・
2008/08/16 13:06:51	113P (90分)	
	上9章	
シマウマ	下211~328 (第18, 19章、エピローグ)	中国が海岸線がなだらかで、ヨーロッパは入り組んでいたからヨーロッパのほうが繁栄を手にした。っていうのは目からうろこです。
2008/07/22 10:40:39	117P (120分)	

	エピローグ (297 ~)	
SBM	上1-251,下1-328	「文明崩壊」が文字通り文明の崩壊について語っているのに対し、この本は文明がいかにして繁栄するかを語っている。今わかっている事実をもとになるべく客観的に法則性を述べていくところはさすが理系の人が書いた文章だと思います。
2008/07/08 07:16:44	579P (900分)	ただ、「文明崩壊」に比べてパンチが今ひとつ足りなかった気がするのも事実。過去の「失敗例」と同じことをすれば大体失敗するのに対し、過去の「成功例」と同じことをしても必ずしも成功するとは限らない。そんなことも考えさせられた1冊(2冊)でした。
crystal	1-317ページ(上)、1 332(下)	歴史は人々のおかれた環境の差異によって、様々な異なる経路をたどったものであって、人々の生物学的な差異によるものではない、と筆者は主張している。そして、現在これほどまでに大きな貧富の差を生み出した究極の要因は、大陸が東西方向に伸びているか、南北方向に伸びているかによる違いであると述べている。また、直接的な要因としては、銃器・鉄製の武器、そして騎馬などにもとづく軍事技術、ユーラシアの風土病・伝染病に対する免疫、ヨーロッパの航海技術、ヨーロッパ国家の集権的な政治機構、そして文字をもっていたことを挙げている。
2008/06/05 07:23:52	651P (1000分)	この本は、歴史の教科書として見たときに非常に完成度の高い書物であると思う。圧倒的な量のファクトによって裏付けながら、議論を少しずつ展開している。ただし、娯楽として読みたい人にとっては、この本はあまりに苦痛を伴いすぎるので注意が必要だと思う。
	下巻 エピローグ	
ひさひさ	1-120, 287-317ページ	
2008/05/28 14:09:18	151P (300分)	病原菌が文明の明暗を決めたことに驚き！
	なし	
のり子	1-83ページ	この本の主題に至る前に、ヒトの進化に関して、自分の認識が間違っていたことに気づいた。
2008/04/25 01:51:17	84P (180分)	その内容は、うまくまとめられなかったので、また時間のあるときに付け加えたいと思います。
	なし	

文明崩壊 上・下 - 滅亡と存続の命運を分けるもの

著者名	ジャレド・ダイア モンド	発行年	2005年
出版社名	草思社	ページ数	781ページ
値段	4,000円	ISDN	978-4794214645

栄えたものは必ず滅ぶ。それぞれの文明の滅びの要因を環境との関わりで広く深くとらえるジャレドの史眼の冴えにうなずきつつ、すべてがレクイエムのように聴こえて、どこか悲しい。

モアイ・ピトケアン・アナサジ・マヤ・グリーンランド.....最新の考古学がとらえた滅びの諸相を 宿命 と受けとるか 警鐘 と受けとるかは、読み手次第。

大著だけれど、1章だけでも、じゅうぶんに分かる。じゅうにぶんに刺激的。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
みずち	上1-435,下1-376	泣きながら、一気に読みました、じゃないけど寝る前にがんばって読んでみようと思って眠い頭フル稼働で読んだらあんまり内容が頭に入ってこなくて、ちょっともったいない気がしました・・・。とりあえずヴァイキングの話がおすすめです、北の大陸で孤高な文明を築くも短期間で滅んでいった理由、滅亡寸前の断末魔が聞こえてきそうな
2008/08/16 12:32:43	811P (840分)	

	6章	リアルな描写は圧巻です
yossie	12-43、248-281、351-368	非常に分厚い本だったので、初めと終わりの章と以前に旅行したメヒコで訪れたマヤ文明の箇所を読みました。実際に見たマヤの遺跡は自然の中に溶け込んでいるようで、本書のような気候変動や環境破壊の果てに崩壊した文明とは思えませんでした。土壌汚染や戦闘などいくつかの要素が伴ってこの文明が滅びていったことを今では現在への警鐘として捉えています。
2008/08/12 10:09:47	81P (150分)	
	248-281	
男爵いも	1-158	文書は硬いのですが授業でやっていたのですんなりと読むことができました。なぜ文明が崩壊してしまったのかなどの理由はとても興味をそそられました。
2008/08/06 11:51:40	158P (200分)	
honyalala	上248-435	マヤ文明などかつて文明があったとされる遺跡を見ることは興味があったため、それ故にその文明の崩壊の話はロマンを感じさせる。歴史や社会学など好きな方には、お勧めできます。
2008/07/28 16:18:18	187P (45分)	
	248-281	
たっきー	124-190	古代文明に関する知識は全くなかったんですが、読みやすく理解しやすかったです。本を読むまではモアイ像を見ても、間抜けな顔した岩だぐらいにしか思っていなかったんですが・・・これからはとても今までみたいには思えないことでしょう。たぶん写真などで見つけたときには手が止まると思います。
2008/07/21 18:19:58	67P (90分)	
	132-142	
男爵いも	1-122	授業で取り上げられていて、大体の内容は知っていたので、最初の部分だけ読んでみました。文章自体は硬いのですが、内容が面白くついつい読み入ってしまいました。
2008/07/10 22:27:14	122P (150分)	
	12-24	
SBM	上1-372,下1-368	とりあえずタイトルに惹かれて読み始めました。
2008/06/24 20:05:11	740P (900分)	読んだ感想としては、興味深い反面、リアル過ぎて怖くなりました。古代文明の滅亡の原因を単発的に書くのではなく、その原因・課程を知ることによって現代文明においてどのように生かせるかを記している。もちろん1つ1つの文明の滅亡を探る上では相当に綿密かつ科学的な情報をもとに書かれており、レポートを読んでいるような印象。理系の人にも読みやすいと思います。
		単発的に読むだけならばとりあえずイースター島の章が読みやすいかと。観光気分でモアイを見るのが怖くなるかも。
石川です。	1-45	イントロだけ読んでみたけど、けっこう面白そうなのでつまみ読みしてみます。
2008/06/20 17:41:53	45P (60分)	
	1-45	
じゃがいも	下157-213,more	今週は分厚い本、と思って分厚いというだけで借りて来た。目次を見ていて、たまたま最近オーストラリアに興味があったのでそこから読み始める。 マクドナルドのトレーに敷かれる紙には、ミートパティはオーストラリア産と盛んに宣伝してある。先日食べたモーパラの牛肉もオーストラリア産。また、羊とか、ポーキサイトとか、地理の歴史を見る限り、豊富な資源に恵まれているので先進国の割に農産物や鉱物の輸出の多い国だな、というのが僕の中にあるオーストラリア知識だった。 しかし、実はオーストラリアの土壌はそんなに豊かではない。入植して来たイギリス人が土壌を過大評価して大量の小麦などを植えたこと、イギリスの文化価値感をそのまま持ち込んで生態系を作り替えたことにより、オーストラリアは「搾取」されてきた。羊が踏み荒らした土地はやせ、狐は在来種を食べ、焼き畑で原生林が消えた。 農業、林業、鉱業、水産業などについて、丁寧に環境問題を論じている。何が言いたいのかわからない、短調でつまらない、といったコメントが多いが僕は非常に楽しく読めた。牛を羊を飼うことが環境にどうして良くないのか、小麦を植えることが何故「搾取」なのか。環境

2008/06/09 12:39:23	76P (200分)	<p>問題を深いレベルで知ることが出来た．高校で地理を選択しなかったのでいろんな国の産業を読んで回れるのが新鮮だっただけかもしれないが．</p> <p>あと，この本はフォントが小さいのでページ数は稼ぎにくいです．</p> <p>オーストラリア以外は小見出しの書き出しと終わりだけつまむ方法で読んで行きました，「読んだ場所」に書くと横に伸びてレイアウトが崩れたのでこちらに書きます． 216,219,223,227,234,237,240,244,246-248,249, 251,256,257,266,273,274,279,286,287,292,293, 300,301,305,306,308,309</p>
	興味のある国	
のり子	上46-138, 151-158, 下36-57, 157-166, 157-180, 216-229	<p>かつて豊かな森林に覆われていたイースター島。 島に残った木の最後の一本を切り倒すとき、その島民は何を思ったか。（以来、土地は不毛になり、巨石文化を作った人々は消えた。）</p> <p>この本の主題は、なぜ人々は、将来、破滅(文明崩壊)に繋がるとわかるような行動（特に環境問題に関して）を取ってしまうのか、である。</p>
2008/06/02 19:06:41	171P (360分)	<p>この問いに対する答えや対応策は、後半で述べられているっぽいですが、この本のいいところは、そういった結論の内容ではなく、過去に「文明を築き、繁栄していた人々が破滅に繋がるどのような行動をどのように選択し、実際に破滅してしまったのか。」という史実（筆者の分析）を克明に記していることだと思う。</p>
	163-190	<p>この克明さが、文明が崩壊するという歴史的な響きができる出来事に「人々が取った行動の帰結である」というリアリティを与え、読者は、現代にも同じことが充分に起こりうるということを、はっきりと知る。</p>
はるゆき	下1-57、309-372	<p>恐らくこの本は綿密な調査と研究に基づいて書かれていると思う。そのため、文章は非常に堅く内容も難しい。</p>
2008/05/12 13:28:18	119P (180分)	<p>それだけに得ることも大きいと書きたいところだが、正直内容に起伏が無く、高い興味をもって読むことが出来なかった。作者が自分が「慎重な楽観主義者である」といったことについては共感することが出来た。</p>
	361-368	
ODN	上12-190ページ	
2008/05/06 23:10:18	178P (120分)	<p>帯にベストセラーと書いてあるからという理由だけで借りましたが淡々と続いていく感じで自分にはつまらなく感じました。 2章読みましたが何が言いたいのかわからず途中でやめてしまいました。</p>

古代文明と気候大変動

著者名	ブライアン・フェイガン	発行年	2005年
出版社名	河出書房新社	ページ数	341ページ
値段	2,400円	ISDN	978-4309251929

静かに溢れた北アメリカの湖が海流を変え、ヨーロッパに大干魃を起し、農耕文明の端緒を開く。環境変動のなかで人類の営みをとらえる試み先史編。

原題：The Long Summer

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
crystal	9-17	ちょうど洞爺湖サミットも終わってしまいましたが、まさにタイムリーな話題なのでは？
2008/07/17 22:04:31	9P (10分)	
のべ	1-31、234-244	文明が発達すると気候変動に対して弱くなる、という考え方になるほど思っていました。また、地球温暖化について触れた部分などで「人間が悪いんだ！地球を守らな

2008/06/11 16:37:52	40P (60分)	きゃ！」みたいな偽善的な事は書かれておらず、あくまで客観的に述べている点などが好きです。
	1-31	
SOUTHERN (° °)!	143-336	気候変動について細かくかかっている一方で、干ばつ、大洪水など自然の流れ(ゲージ)のなかで人類がどう動いたか、もかかれています。部や章の初めの引用文は関連性がいまいちわかりませんが、大変動が世界文学作品の自然の描写に豊かな表現力をつけたんじゃないでしょうか？
2008/05/15 11:36:06	193P (240分)	
	興味のある文明のところでいいとおもいます。	

[TOPへ](#)

歴史を変えた気候大変動

著者名	ブライアン・フェイガン	発行年	2001年
出版社名	河出書房新社	ページ数	294ページ
値段	2,400円	ISDN	978-4309251547

ほんのわずかの気温変化がヨーロッパを凍えさせ、農民の反乱を、革命の時代を連れてきた。環境変動のなかで人類の営みをとらえる試み歴史時代編。

原題：The Little Ice Age

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
パトレーゼ	9-50	こういう史実に基づいたテキストは、物語的躍動感と客観的事実の分量と配置バランスが優劣を分けると思っています。それで本書ですが第一感としてはそれが悪い。一章しか読んでいませんが、温暖化とバイキングの活躍の関連について語っているところでは、物語的躍動感があまり伝わってこないのが、単調に感じます。でも単に歴史的事実をただ書いているというわけでもないのが、そこが不思議なところ。
2008/08/14 14:10:13	42P (20分)	

下の人のコメントを読むと、どうやら1、2章のできだけ
が悪いようなので、読むところを失敗したのかな。

特になし	1-25	氷河期がこまめに訪れていたことにおどろきました。
2008/07/17 11:27:31	25P (20分)	人類の歴史は気候変動との戦いなのだということがよくわかります。
	4-5	
のり子	9-50, 277-303	中心的な話題ではないが、1 2章の内容で、
2008/07/16 14:58:30	69P (120分)	1400年から1967年までに作成された絵画に描かれている ” 雲の様子 ” から、当時の気候の状態を分析するという手法がおもしろいと思った。
		ただ、1 2章はいらぬような気もしました。 この章のせいで全体が安っぽくなっているような...
knennn	9-78,150-209	温暖化が叫ばれている今日ですが、実際どんな変化が起こ
2008/07/01 12:44:38	130P (100分)	るのかわからないし、多分それに対応して生きていける人も少ないでしょう。そんなことを考えると、この本に出て
	203-209	くる農民たちのことを他人事とはいい切れないのでは。
じゃがいも	18-31,95-118,314-336,337-344	読んでいて、いきなり船の話が出て来て面食らったら1章
		を読みましよう。 一貫して船の例えが用いられています。その心は「大きな
		船(文明)は大きな波(災害)に強いが、想定外の波(超大災害)
		には小さな船よりももろい」
2008/05/16 17:55:29	69P (120分)	文明=人口が巨大になると数十年に一度の災害には強い
		が、数百年に一度の大災害を真正面にうけるとあっけなく
		消える、分裂した文明は場所を変え、少人数の村からやり
		なおし、なのだが、今の地球にはやり直す場所がない。場
		所を変えようにも、すでに人が住んでいるからだ。どうし
		ましようね。
	95-118	4章、クロマニヨン人の章は平和だ。何をたべた、どう
		やって貯蔵した、「大草原の小さな家」が好きだった人は
		是非。
SOUTHERN (° °)!	1-250	いま、私たちは氷河期にむかっている。
2008/05/15 11:43:48	250P (360分)	しかし人為的温暖化という贅沢病(?)にかかっている。
		昔の温暖、氷河というのは「飢え」という切実なラインま
		でおかされてしまうため、人類が生きること必死になっ
		て自然をしのいできた。自然と共存なんていう生温いこと
	温暖期と寒冷期をおさえて	は今となつてのことであつて、自然に立ち向かう人間の動
		きがあつたんだなあ~とおもいました。

[TOPへ](#)

5000年前の男

著者名	コンラート・シュ ピンドラー	発行年	1998年
出版社名	文藝春秋	ページ数	375ページ
値段	650円	ISDN	978-4167309770

1991年アルプスの雪の中から発見された凍結ミイラ。折れた肋骨、毛皮の帽子、小麦の粒に未完成の弓矢。アルプス山中に倒れた彼はどこへ行こうとしていたのか？

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
つばき	1-71	イントロは好きですが、 評価が高くて読んだものの、あまり好みではありませんでした。 みんなが言うようにタイトルのインパクトはすごい
2008/08/18 21:55:39	71P (40分)	
sufjan	22-34	山のぼってミイラ出てきたら驚くだろうな
2008/08/18 10:34:38	12P (30分)	
	22-34	
わくわくさん	1-100	タイトルに惹かれて読んでみたが、中盤は中だるみなかんじだった。

2008/08/17 05:12:00	100P (90分)	実際の分析作業は退屈なくらい緻密でなければならないのだろうが、読むのは大変だった。
鱒鮭	11-71	タイトルと表紙のインパクトとは裏腹に、淡々と語られていく状況報告。
2008/08/12 15:38:01	61P (40分)	最後まで読みたくなるような最後だけでいいような、ちょっと悩む印象。
ksk	1-4,9-19,89-92,	
2008/08/11 14:41:17	19P (20分)	タイトルからロマンあふれるストーリーを想像したが、どちらかといえば推理系。さまざまな物的証拠から彼の正体に迫る。
	1-4	
SBM	226-272	主に分析のページを読みましたが、ミイラの死んだシチュエーションだとか身体的特徴などについて考察しています。
2008/08/08 12:05:04	45P (60分)	なんだか実験のレポートを読んでも気分でした笑 ただ、考古学って言うのは1体の完全なミイラがあるよりもたくさんの遺体だとか遺骨、不完全なミイラがある方が研究の役に立つような印象を持ちました。
		理系的な意見を言うと、結局推論の域を出ないものよりも現実的な物事を見る方が役に立つような...
エリカ様	1-19	最初のほうを読んでいてすぐに感じた。
2008/08/06 17:43:11	19P (30分)	私は文明が盛んになったあとの日本の歴史が好きなんだと。
	特になし	ということですのですぐに断念。
すみただ	12-346	1991年にアルプス山中見つかった一人の男性の遺体が、調べてみると紀元前の男性だったというお話。氷河で凍結されていたため保存状態が良く、所持品等から当時の生活像が考察できるのだ。
2008/07/28 22:38:36	335P (200分)	ちょっとミステリアスな感じを抱いてしまった。なんでも、これまでこのアイスマンに関わった7人の法医学者、第一発見者夫婦の夫、ジャーナリストら関係各者が相次いで死亡したらしい。法医学者が偶発的な事故死、関係者の一人がその葬儀に出席する際の交通事故、更に発見者夫婦の夫も死亡しているらしい。発掘には数百人が関わってきたこと、アイスマン発見からすでに17年が経過していることを考えれば、このうち何人ががすでに亡くなっていることは特に驚くことではないとの指摘もあるみたいだが、個人的にはちょっと恐いです。
白猫	1-71,他ところどころ	滑り出しは面白いものの、 細かな調査項目に関する記述は退屈なものが多く、 かなり読み飛ばしました(汗
2008/07/18 10:26:54	100P (120分)	彼がこんなところで何をしていたのか、 最後の日はどんな生活だったのか、 など結論というか推測の部分は面白かったです。
	245-248	写真じっと見てたら夢に出てきそうだ・・・
Nimrod	P.1-97,226-272	他の方も書いていましたが、アイスマンの名で知られるミイラ。このミイラは何がそんなに衝撃的かつ画期的だったのか、それがおぼろげながらもわかりました。
2008/07/15 11:09:00	134P (60分)	ただ、個人的に興味を持ったのはそのミイラからわかる先史時代の生活よりも、ミイラ発見の経緯、そして発見後の情報の錯綜っぷりやマスコミの的を外した非難の方だった。特に、このミイラによって再燃したイタリアとオーストリアの領土問題には思わず失笑。
	冒頭のミイラ発見の描写	
男爵いも	1-56,302-346	ミイラの写真は非常に衝撃的でした。
2008/06/22 07:09:39	110P (80分)	ただ、5000年前の男の解明ということで、説明文が多かったために読んでいてあまり本にのめりこむことができませんでした。
	1-4	詳しく知りたい方は楽しめるかもしれません。
ivane	1-42,57-83,302-314	ここのコメントでアイスマンと書いてあるのを見て、なんとなく思い出した気がします。そんな話があったような、と。
2008/06/16 13:50:50	70P (50分)	写真も多く載っていて読みやすそうなんですけど、なぜかあまり進みませんでした。どのページを見ても細かいところまできちんと書かれているためでしょうか。「歴史の授業を聞いていてうとうととしてしまう」感覚でした。
	1 ページ目	
mizuhara	1-375	みんな書いてますが、最初の写真は衝撃的です。
		写真を見る限り、保存状態がいいとはいえ、完全にミイラ化してしまっているのによく、ここまで細かいことがわかるなあ。と思いました。
		氷河の中と言う、死体の保存に非常に適した環境におかれていたた

2008/06/10 16:58:09	375P (250分)	め、5000年前の行き倒れの人の死体が出てきて、それによって、遺跡調査では分からなかった当時の生活が分かってきた、という流れが順を追って説明されています。物語として凄い面白いかと言うと、別にそうでもないのですが、歴史探索のドラマが見られます。
	1-4	ちゃんと勉強しようとしている人ではない人にとっては、細かい数字等がいっぱいでてきて面倒かもしれませんが、さーっと、読むのに適しています。
のべ	1-71、226-248	雪の中から5000年も前の人が出てきたのはびっくりでした。
2008/06/04 13:20:38	93P (90分)	考古学というものに今まで触れた事が無かったので、ミイラをどのように調べるかなどを知れてよかったです。
	226-248	最初のカラーページのミイラの写真は衝撃です。
pocky	1-19,328-346	氷河のおかげで5000年前のミイラが完全な状態が出てきたことに感動！！最初のページのミイラの姿が印象的です。
2008/05/18 19:15:10	37P (15分)	
	338-346	
P-ball	1-71 , 122-197 , 328-346	「アイスマン」の名で知ってる人もいないんじゃないでしょうか？
2008/05/10 21:22:17	166P (80分)	氷河から発見されたミイラの話です（“ア ~ン”してるミイラです（笑））。発見当初は結構雑に扱われていたのが意外でした。文章は考古学者である著者の主観が結構入っている気がしますが「へ ~」と思いつつ楽しく読めました。
	1-4	ちなみに1~4ページは見たら夢に出てきそうです。ミイラとか苦手な人は見ない方がいいかもです

[TOPへ](#)

ローマ人の物語ハンニバル戦記 上・中・下

著者名	塩野七生	発行年	1993年
出版社名	新潮文庫	ページ数	581ページ
値段	1,200円	ISDN	978-4101181530

カンヌからザマへ。戦術の天才が、ついにその牙を折られる時が来る。敵はスキピオ、「あらゆる彼の行為は完璧な論理的帰結を持っていた」と称された男。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
ODN	上11-151, 中12-262	自分はあまりこういう歴史ものは読まないのだがこれは面白かった。 書き方が丁寧でイメージがつかみやすかったところがよかったのかも。 下が借りられなかったのが残念。自分で買って読みたいです。
2008/08/18 00:41:59	392P (300分)	
鱒鮭	下158-173	とりあえず冊数埋め的に読んだけど、やっぱりはじめから読まないとさっぱりで残念な読み方をしてしまったと後悔。
2008/08/11 16:22:45	16P (10分)	

男爵いも	下1-207	
2008/08/05 04:23:09	207P (100分)	とても読みやすくすぐに読めた。 全体的によかったが、戦闘シーンは特に面白かった。
	69-80	
SBM	下1-55	
2008/08/04 08:52:34	55P (60分)	さすが売れてる本って感じで読みやすかったです。 主に戦いのシーンだったのですが図で分析したりもして わかりやすくなってました。 ただ、世界史が大の苦手知識がほとんどないので、 知ってから読むともっと面白かったのかなと思いました。
まるきん	上・中・下	
2008/07/25 03:51:54	620P (240分)	面白い 登場人物の人間味と戦略がいいバランスで描かれている ローマに行きたくなった
	上49-60	
hiro	上1-151	
2008/07/22 16:12:15	150P (120分)	カタルゴとローマの駆け引きを見ているのが面白い。 とんとんと話が進んでいくので読んでいて飽きない。 時間があれば、続編も読んでみたいと思う。
特になし	上1-151	
2008/07/22 12:28:56	151P (120分)	話の流れがスムーズでまた、戦争モノ特有のドキドキ感 をもって読み進められる。カルタゴとローマの気質の違 いなどにもふれており、その辺も面白い。
	上18-151	
しゅーくりーむ	上・中・下	
2008/07/19 11:15:37	620P (300分)	普段本を読まない自分にとっては全部読むまでに結構時 間がかかってしまった ぜんぜん歴史に興味ない自分が、ポエニ戦争あたりは夢 中で読みすすめてしまえるくらい、面白い！一言である
	下巻	
crystal	上11-16	
2008/07/16 22:07:56	6P (5分)	地中海の覇権をめぐる争われた「ポエニ戦役」を描い ている。 楽しそうな雰囲気伝わってきた。時間があるときに、 ぜひ通して読んでみたいと思う。
Nimrod	上・中・下すべて	
2008/07/07 12:02:11	620P (200分)	とにかく面白い。とても歴史書とは思えない。まるで トールキンの描いた「ミドルアース」の世界に迷い込ん でしまったかのような錯覚を覚える。 専門用語にもその都度解説を付してくれるので私の方 のようなズブの素人も抵抗なく読める。なにより、これだけ 奥の深い内容を非常に平易な文章で表現しているのだ あつという間の読書だった。 ってというか、2000年以上前にこんな大規模な戦争あつ たの？という単純な驚き。そんな時代、極東の島国では ようやくムラとかができた頃ですよ。一方ローマでは万 単位の兵士を動員し、カルタゴの武将は象を引きつれ山 脈を越える。とにかくスケールの大きさに圧倒されるば かり。著者、塩野七生がイタリアから功労賞を授与され るのも納得。
	中巻のクライマックス	
マーシャル	下14-91	
2008/07/04 17:02:56	78P (90分)	ハンニバルとスキピオの最後の戦いがテンポ良く描かれ ていて面白かった。ローマの歴史に興味がある人におす すすめです。
	65-80	
ヨーロッパ大好き	640p	
2008/06/28 18:12:02	640P (330分)	ハンニバルのローマに対する攻めはそれに対抗するロー マの動きがすばらしい。
	中全部	
人生迷走中	上11-151,中12-262、下14-205	
2008/05/13 13:14:03	594P (500分)	おもしろかったです
たっきー	上1-151	
2008/05/13 11:54:53	151P (120分)	初めて西洋の戦争ものを読みました。日本のものとは 違った面白さを感じました。 やっぱり司令官はキレ者でないとねえ。
	上61-74	
sufjan	上1-151 中1-262 下1-207	
2008/05/07 12:33:19	620P (300分)	ローマがんばる。 システムすごい。だいぶ昔なのに。 船から船にがっしゃーん。 ハンニバルつよっ おもしろ なんかなんとか大戦みたいなゲームみたいだな

	上47 中巻	
pocky	上1-151	紀元前のローマの歴史が描かれているので、その時代の文化や地中海沿岸諸国の情勢がわかる。戦争のロマンとかを誇張して表現してるわけではなく、歴史そのものを書いている感じです。ローマの歴史に興味のある人にお勧めです。
2008/05/05 15:24:41	151P (120分)	
	81-88	
のり子	下14-91, 112-124, 136-156, 200-207	各国の武将の人柄・性格を推し量れるエピソードが多く書かれているので、面白かったです。
2008/05/02 14:56:04	119P (180分)	
	80-83	

[TOPへ](#)

ローマ世界の終焉

著者名	塩野七生	発行年	2006年
出版社名	新潮社	ページ数	396ページ
値段	3,000円	ISDN	978-4103096245

蛮族に侵食されて大帝国が滅びてゆく。その滅びの運命にどう抗うかで、男の真価が定まるのではないか。軍総司令官スティリコの生涯をいとおしむようにたどる作家のまなざしは、惚れた男へと向けるそのような。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	

地中海世界とローマ帝国

著者名	本村凌二	発行年	2007年
出版社名	講談社	ページ数	343ページ
値段	2,300円	ISDN	978-4062807043

塩野さんが各駅停車なら、こちらは特急。大帝国が勃興してから滅ぶまで、多士済々の登場人物を手際よく出し入れしつつ、帝国滅亡の原因にまで説き及ぶ。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
tormenta	215-286ページ	春休みにイタリアに旅行に行って、ローマで見てまわった観光地がたくさん出てきて感激でした。コロッセオやパンテオン、フォロ・ロマーノなどの写真を眺めているだけでも楽しいです。これを読んでからローマに旅行に行くのがオススメです
2008/05/09 12:11:41	72P (100分)	
	258ページ	

「生き方」の中国史

著者名	竹内康浩	発行年	2005年
出版社名	岩波書店	ページ数	228ページ
値段	2,500円	ISDN	978-4000221504

おとなりだし、ずっと日本の先生だったから、つい分かった気になってしまう中国。

じつは全然違うんだ、と「家」と「官」の二つに焦点をあてて、教えてくれる。

漢字だらけで初めはとっつきにくいかもしれないけれど、著者の語り口は、なかなか楽しげ（ナイーヴな民主主義万歳はちょっと思考が浅すぎると思うけど）。びっくりエピソードの拾い読みをしてゆくだけで、寓話からそれぞれの民族の世界観を照らし出す手法が会得できる。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
sours	1-37, 135-148	中国哲学というと、「道」みたいに、なんだか回りくどい説明ばかりで取っ付きにくい、と思っていた自分にとって、この本の明快な説明はもはや衝撃的。 Q．気とは何か？ A．遺伝子(ただし、家族間の場合)なるほど、イメージしやすい。
2008/08/18 22:24:37	51P (40分)	

のり子	102-215	古代中国では、王や役人の権力は天から与えられたもの。天候の不順も、天子の不徳のいたすところ。
2008/08/17 21:16:25	114P (240分)	でも、当時の人って、どのくらいそれを真剣に信じていたのだろう。現代から考えると、権力行使を肯定するために嘸っているようにしか思えないけど、天気が荒れたから大臣を辞職するって、本気だったのかしら。。。。
		中国の話しかしていないけど、古代思想としては、同じようなものがヨーロッパとかでもあるのでは？（よく知らないけど）他の地域での思想の比較とかを入れてくれると、もっとおもしろくなりそう。
さわら	1-235	興味を持って読んだのは、始めのほうに書いてあった中国の気の考え方がくらいな気がする。やっぱり庶民より自分の知っている有名人についてのほうが読みやすい。
2008/08/13 13:52:30	235P (300分)	あと、もうちょっと読んでて楽な話がよかった。
シマウマ	5章、6章の一部	
2008/08/12 20:58:27	50P (30分)	中国の庶民の歴史。内容がまじめすぎて肩がこりました。
SBM	117-134	結構堅めの文章でなかなかページが進まない。
2008/08/08 14:20:23	15P (40分)	個人・国民としての中国思想について書いてあるけど、まず背景を知らねばいけないと思った。
結花	1-235	中国の官職ってヤバイ！というのが読み終えて一番残っている感想である。本書は家庭というわりと身近な話題から入り、中国の制度や慣習を綴っているが、今の日本人も少しは見習うべき孝の考えなど(中国ではちょっと大げさすぎる気がするが)面白い話題がピックアップされている。しかしことのほか読みづらいのは、やはり中国を取り上げたゆえの漢字の多さ??
2008/07/09 16:40:02	235P (300分)	
	179-199	
crystal	ア29-235	はじめに、の部分で作者が本書を編集した意図に疑問を感じたので、この本はあまり読まなかった。
2008/07/06 20:06:21	16P (20分)	しかし、中国の歴史から学べることは多いと思う。また多様な人たちとコミュニケーションをする際に、共通の話題にもあげられると思うので、どこかのタイミングで中国史についての本も一冊は読破したいと思う。
じゃがいも	1-2,205-218	中国史に挑戦、やはり分からない。高校の漢文は読めなくなかったが、登場人物の名前が全く頭に入らない。8章に太公望という人の名前が出て来た、知ってる。確かカバのような妖精にのって棒持って闘うマンガの主人公だったような。
2008/06/24 12:44:09	16P (30分)	
	216-	本書で君主と民という国家の思想は何となく分かったので、一旦マンガが何かで中国史の登場人物を覚えて再び本書に戻って歴史を辿れば理解が深まるかもしれない。名前が覚えられれば,,,
ivane	135-235ページ	前から開いてまえがきと目次を見ても、本の内容についてぴんときないかもしれません。「濫読」をするならば、この本は後ろから開いて、終章とあとがきから読んだほうが、わかりやすいかと。そこにこの本で何が書かれているかが、わかりやすくまとめられていたので。
2008/05/12 13:13:56	101P (150分)	
	229-235ページ	

天翔るシンボルたち - 幻想動物の文化誌

著者名	張競	発行年	2002年
出版社名	農山漁村文化協会	ページ数	192ページ
値段	3,200円	ISDN	978-4540020438

ずんぐりかわいい角端(かくたん)は一角獣。皇帝の陵墓を護ってます。びろんと舌を出してるのは辟邪(へきじゃ)だよ。太陽には三本足の鳥が棲み、龍が産んだ九人の子はみんなできそこないさ。こっそり飼ってみたいユニーク動物が、いっぱい。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
sours	5-22, 97-112, 194-201	記号系の話が好きなので手にとってみたが、読みにくい漢字が多かった上、なんとなく内容が散漫な印象を受けたので、ほとんどイラストだけを楽しむことに。見れば見るほどナンセンスなやつらばかりです。
2008/08/18 23:29:30	39P (15分)	
のり子	194-201	そう言われてみると、一角獣は西にも東にもいる！龍とドラゴンも発想は似てる。どこの地域の人でも、考えることはいっしょなのかな。それにしても、中国には幻想動物が本当にたくさんいる。日本には、大陸から渡ってきたやつらばかりだな～と

2008/08/17 22:38:24	7P (15分)	日本人の想像力のなさを残念に思っていたら、いた、いた、いました。
		ピカチュウは日本産幻想動物の傑作です。
人生迷走中	8-183	イラストだけ追いました。
2008/08/11 08:18:46	63P (15分)	イラストだけ追うとまあまあ楽しかった。
		内容は分からない。
まるきん	97-112	友人が持っていたのをぱらぱらめくってみただけなので、本の内容はよく分かりません。カラーになっているのは人間の空想力の産物です。
2008/08/05 13:01:08	10P (5分)	ペットにするなら手のりドラゴンが欲しいと思った。
	97-112	
しゅーくりーむ	5-22 97-112	読みにくいかな
2008/07/29 03:49:16	32P (10分)	なんで97-112を読んでいる人が多いかというと、一言にカラーページだから
	97-112(カラーページだから)	絵本にした方がよくないかなこれ
ロマンチストの資格	5-6ページ、97-112ページ	全体的にパラパラ写真を見ると楽しいと思う。
2008/06/30 20:19:39	18P (10分)	ただ少々内容が緩慢な印象を受けたので残念ながらあまり読めなかった。なお、なんとなく文章が読みにくく感じるのは著者が中国人だからかもしれない。
	97-112ページ	
sufjan	1-3	
2008/06/17 12:25:15	3P (10分)	読みにくいねトウテツってなに？
ODN	8-196ページ	
2008/06/03 10:57:11	189P (190分)	前半はよくわからない言葉ばかり出てきて読みにくいので退屈でしたが最後の章の龍が不吉なイメージから聖なるイメージに変わっていく過程が面白かったです。
	154-174	
knennn	7-32、53-78、97-112、153-201	
2008/05/20 09:52:25	107P (80分)	内容は学術的ですが、いろんな幻想動物がいるので絵を見るだけでも楽しいです。注釈も多いのですがちょっと読みづらいのが残念。
	97-112	
じゃがいも	5-6,97-112	中国の幻想動物(当時の人たちには幻想ではなかったが)について。
2008/05/16 17:58:47	17P (20分)	カラーのページだけ見ました。いろんな麒麟とか一角獣の石像が見られて、ちょっとした幻想動物園。
	97-112	漢字にフリガナがほしい。名前がよめない動物がいる...

王を殺した豚王が愛した象

著者名	ミシェル・パス トゥロー	発行年	2003年
出版社名	筑摩書房	ページ数	266ページ
値段	2,400円	ISDN	978-4480857743

たとえば蜜蜂はナポレオンが選んだフランスの象徴。なぜなら.....動物ごとに織り込まれた歴史の記憶を読み解く。で、一番人気はやっぱ象!

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
わくわくさん	1-100	ある時代の人々が抱いている動物のイメージや、その背景を知ることが出来た。1話1話が短いので、面白そうな所だけつまみ食いするのがおすすめ。
2008/08/17 05:16:29	100P (60分)	
ksk	1-80	1話1話が独立しているので手軽に読める。ただ、途中で飽きてしまった。
2008/08/11 15:10:45	80P (60分)	

みずち	1-266	伝説、神話、御伽噺、ファンタジー好きにはお勧めの一冊 一説一説が短いので寝る前にさくっと読めちゃってそのまま没頭して明け方近くになったりしたことも・・・
2008/08/06 12:51:37	266P (200分)	
	80-88	
pato	29-44	サクッと読ませていただきました。
2008/08/01 21:54:49	26P (30分)	ミノタウロスの出生の秘密には驚かされた。
	29-37	
camel	9-27	一つの話が10ページくらいで終わるのでちょろちょろ読みがしやすいと思います。
2008/07/22 11:28:16	19P (30分)	キリスト教とかよく知らないので、なんか良い勉強(?)になった気がします。
Www	3-27、104-109、244-252	歴史上どんなイメージを動物が与えていたかを具体例と主に描かれている。納得する部分もあったが、そうじゃない部分もかなりあった。しかしネッシーの話は面白い。
2008/07/14 21:14:11	40P (30分)	
	244-252	
かごしま	3-8,80-88,104-109,143-152,180-190,197-207,264-269ページ	この本では、ある時代におけるある動物に関する事実とそれに関する歴史的考察が、36章分書かれています。どの章も10ページ以内の短いものですので、つまみ読みしやすいと思います。
2008/06/04 20:05:45	59P (60分)	僕は、「パトロン革命」さんのコメントを読んで、アドバイス通り「豚」に関するものを中心に読んでみました。この読み方だと、「豚」という動物を歴史上のいろいろな観点から見れるのでおもしろいとおもいます。
	197-207ページ	オススメは「ジェヴォーダンの獣」です。同名の映画もありますが、スリリングで文章の世界に引き込まれます。
メルハバ	3-44、104-126、208-279	エデンの蛇からクローン羊ドリーまでの歴史的に有名な動物をその事実と歴史的背景から解説した一冊です。一章辺りが短い上に、テディベアやミッキーなどなじみある話も扱われているので結構サクサク読めると思います。自分はこういう構成(事実&歴史)は大好きなので非常に楽しめました。個人的におススメなのは立ち読みポイントにもしたクローン羊ドリーの話です。人間と羊の関係の深さには驚かされました。手に取っ
2008/05/22 21:36:16	137P (60分)	

	264-269	た方は是非一読を。
パトロン革命	1-20,38-44,80-89,104-109,127-135,191-196,213-238,244-256,264-269	<p>動物ごとにトピックが細かく分かれていて、知っているものだけを選んで読みました。何故か一番最後から読んでみたところ、これがすごく面白くて早くも「読んでよかったです！」と満足してしまいました。犬や猫など、自分たちに身近な動物もいますし、なんと言っても特徴は豚についてのトピックが複数あること。「豚」に絞って読んでみるのも一興だと思いますよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋史の中に登場する動物たちに関するエピソードが集められている。 ・中高生のころ、聖書の授業で習った説話に出てきた動物たちの裏事情を垣間見ることができておもしろかった。 ・人によっては「翻訳文が長々しい！」と感じるかも。のんびりゆっくり読むのに
2008/05/22 21:31:18	103P (80分)	
	80-88,104-109	
sugar	1-80	
2008/05/07 13:00:13	80P (60分)	
	71-79	

[TOPへ](#)

縞模様の歴史

著者名	ミシェル・パス トゥロー	発行年	1993年
出版社名	白水社	ページ数	141ページ
値段	900円	ISDN	978-4560073742

シマシマは悪魔のしるし。だから囚人服はシマシマ。でも、シマシマは衛生のしるしにもなった。だからパジャマやシーツはシマシマ。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
goran	1-38	とりあえず筆者が縞模様を愛しているということが伝わってきた。ホラ縞模様はすごいでしょ？っていう感じの本。縞模様フェチなあなたに。
2008/08/18 23:57:41	38P (15分)	
	ある意味全部	
さわら	1-147	縞模様の意味の変遷を書いた本。やたらと難しげに書いてある気がした。読んでて疲れる本だった。
2008/08/13 14:01:53	147P (300分)	
SBM	85-123	現代と中世では縞模様の持つ意味は違っていただけなんて今まで気にしたことなかったです。

2008/08/13 08:48:00	39P (50分)	やはり資本主義と産業革命によって物の持つ意味が変わったのだと思うと、資本主義って何なんだろうなと思いました。でも、文章が硬くて読みづらかったです。
みけもどき	7-39,49-66,85-100	縞模様の持つ意味の変遷を紹介しています。
2008/07/30 00:17:52	67P (60分)	中世において縞模様 = 悪魔的となったきっかけは何だったのでしょうか？そのあたりが書かれていなかったのが気になります。
	写真	著者が何を言いたかったのか、よく分からなかったです。
hiro	13-19	今とは違って、昔は縞模様にはある程度意味がこめられていなんだなと感じた。
2008/07/22 16:18:02	7P (10分)	文章も堅くて、あまり面白くなかったように思う。
白猫	1-38、85-98	よんでみて、なんとなく縞模様のイメージが悪くなりました。
2008/06/05 09:49:52	52P (60分)	また、こんな本でも世の中に出版されるんだなと、感じました。がんばったものの、面白くなかったので放棄・・・
SOUTHERN (° °)!	全部	今日の僕の服は縦縞模様。 死刑執行人、囚人、シマウマ、船乗り、などなど、縞模様は時にはマイナスイメージの象徴として目立つように、時には衛生的な、上品なイメージの象徴として使われました。
2008/05/29 10:31:24	147P (160分)	縞模様は時代によって正反対の意味を持って歴史の流れに乗ってきたんだなあと思いました。
	所々にある写真	縞の歴史なんて考えたことがなかったので、非常に興味をもって読みました。
sours	全部	中世ヨーロッパにおいて、売春婦、死刑執行人、旅芸人などが異端のシンボルとして身につけたとされる「縞模様」の歴史の変遷を辿った本。特に、ある時代の中で人々に共有されてきた、縞模様という記号が持つ意味に着目している。
2008/05/13 12:21:20	141P (180分)	ある時代には否定のシンボルとして使われていた縞模様が、次の時代には肯定的な意味を帯びるようになり、それに応じて、縞が使われる場面が変化していく。しかし、一時代における縞の意味（及び使用場所）が完全に消失してしまうということではなく、それらは後世に（あくまでなんとなく）伝えられていく。 囚人服、国旗、パジャマ、交通標識、etc.
	85ページ以降	現在、世間に氾濫する縞模様は、各時代における縞の意味をどこかで引き継いでいるのだと考えれば、縞模様ってやつは結構おもしろい。 ちなみに、「縞の意味が変わったとして、で、なんで変わったの？」という問いには、この本は大した回答は用意してくれていない。個人的には、そうした点がやや不満。

絵で見るパリモードの歴史

著者名	アルベール・ロビダ	発行年	2007年
出版社名	講談社学術文庫	ページ数	332ページ
値段	1,150円	ISDN	987-4061598003

直径2メートルのパニエでスカートをふくらませたあとはエスカレートするっぽう。頭上高々と帆船を編み上げたり、リボンと羽根飾りてんこ盛りのボンネットの貴婦人たち。ちょっと着てみたい.....かも。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
ミソカツ	5-52	今見ると絶対にありえないだろうと思う帽子や、今でも十分通用する衣装もあったり、絵を見ているだけでも面白かった。それでも当時の人々にとっては流行の最先端であり、それは単独で存在するものではなく、ある時代の流れの中で建築やいろいろな芸術文化が合わさって出来上がったものであり、だからこそファッションなのだと思う。きっと今の服装を500年後の人が見たら、どうしてこんな格好をしているのか不思議に思うのだろう。
2008/08/17 05:53:17	48P (50分)	

さわら	1-354	絵を見る感じ。 読んでないですね。
2008/08/13 18:45:34	354P (300分)	おセンチ・プフとかすごいですね。 重くないんですかね。 街中で見かけるすごい盛ってる姉ちゃんとかもね。
yossie	5-52,91-123,230-262,331-355	初めはパラパラと絵を見ていきながら、気になった絵がある章を読んでいくという方法をとりました。そのせいかも知れませんが、最後のオチというか、全体を通して何か主張をしたいといったことが無かったので、評価が少し低めです。 しかし、ルイ16世の章のヘアスタイル（ハリネズミや麗しき雌鳥号ヘアスタイル等）やほくろのモードなど、ちょっと理解に苦しむような内容が豊富で、立ち読みするにはちょうど良いと思います。
2008/07/22 12:38:25	135P (240分)	
	230-262	
SBM	92-120,172-193	絵が多いので比較的分かりやすかったです。 今からすると「なんだそれ？」と言いたくなるような絵ばかりです。 しかし、当時の権威者の服装を民衆が真似ていくという流れがあることに気づかされました。
2008/07/17 11:07:02	48P (50分)	
honyalala	1-262	絵が多く、ページ数も稼げる一冊。
2008/07/15 13:12:37	262P (60分)	芸術のまちパリでの中世などでのファッションを垣間見れた。 よく知らない謎の服装や飾りなど、あるいはコルセットなど知っているものまで。貴族の格好には興味はなかったが、少し関心がわいた。
	ファッション図	
じゃがいも	126-139,172-184	絵がいっぱい。バンダイのロボットかよと言いたいくらいのハデハデ衣装の数々が時代毎に紹介されている。
2008/07/10 09:04:50	27P (30分)	服としての機能性は2の次な、ぎゅうぎゅうコルセットやきらきらアクセサリの数々。戦争ファッションがしくて女性が戦争に進出したというくだりがあって、「おいおい」と思った。
	126	服としての機能性と書いてしまったけれども、当時のパリでは男女の注目を集めファッションで優位に立つことこそ大事な服の機能だったとも言える。その異常性に引きながら読むのが楽しい。
crystal	5-355	「中世から19世紀末にいたるパリモードの流れを多数の挿絵をそえてビジュアルで紹介したもの」（本誌より抜粋）
2008/07/07 20:38:02	351P (60分)	笑える。頭に船が乗っていた。 一つ残念なのは、白黒の簡単なデッサンであるために、服の質感までは感じる事ができなかったこと。 人間の想像力とはすごいなぁと感心させられる。
pocky	1、37、203、235	表紙を見て僕が思っていたパリの貴族の格好と同じで目を留めました。15世紀よりも18世紀の方がよく映画に出てくるきらびやかな格好だと思いました。
2008/06/10 10:57:46	4P (1分)	
	1	
のべ	1-123	中世ヨーロッパの人々の奇抜な服装を、丁寧な絵を通して知る事ができておもしろかったです。斬新なスタイルが多い。。。 洋服を通して世界の変化や状況などを考察しているところもありその時代の人々について知る事ができてよかったです。
2008/06/08 15:59:21	123P (100分)	
	28-51	
sugar	5-77	パラパラと図版をめくっていただけでも楽しめます。 せっかく綺麗な洋服が描かれているので、カラーで見てみたかった。 一度でいいからコルセットでウエストをしめつけてパニエもさもさのドレスを着てみたくなりました。
2008/06/03 12:55:42	72P (40分)	
鱒鮭	5-355	内容は、時代ごとのパリモードを挿絵を挟みつつ紹介していくもの。 当時の時代背景などから生まれるモードの変化変貌を味わえます。
2008/05/20 12:31:50	351P (300分)	
		しかし、少々内容がコアでとっつきづらさがあり、それでも興味があるならどうぞ。

本多小松	5-355	時間の経過にそって、その時代時代のモードを紹介しています。歴史の出来事やその時代の貴族たちなどに影響されファッションが何回も変わってきたことがわかります。また、あるモードは歴史の中に何回も消えては生まれを繰り返すようなものもあり、歴史が繰り返されているようなものであるようにモードもそれに沿って繰り返されているような感じをうけます。中身は絵も多く、モードのイメージを非常にとらえやすく書いてあり、興味を持ってる方は一度読まれるといいと思います。(私にはちょっと重かったようですが
2008/05/01 08:36:40	351P (360分)	

[TOP](#)へ

中世ヨーロッパの都市の生活

著者名	ジョセフ・ギース フランシス・ギース	発行年	2006年
出版社名	講談社学術文庫	ページ数	315ページ
値段	1,100円	ISDN	978-4061597761

トロワ1250年、フランス。都市の原型に滞在してみませんか。チュニック姿の職人に白い被り物の主婦たち、向こうに大聖堂。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
purebred	268-279	こういう本は好きじゃないので、悲惨なところを読んでみた。それでもあまり興味がわからないのでやめました。
2008/08/18 23:40:50	12P (10分)	
	268-279	

ポンプUno	70-88	タイトルの通り中世ヨーロッパの生活がどのようなものだったのかを、日常生活、冠婚葬祭、職業、教育、文化、市政、厄災エトセトラエトセトラと多岐にわたってジャンル別に記している。自分の興味のある所を読めばいいと思う。
2008/08/17 00:40:46	19P (20分)	僕は時間がなかったので「主婦の生活」という章だけ読んだ。 女性はいつの時代も強い。封建的な制約に縛られながらも奥様方はハツラツと生活し、夫を尻に敷く。
		遠い昔であっても変わらない人間の普遍的な部分に触れると、ウン百年の時をこえて昔の人と解り合えたような気分になれて嬉しい(別に僕が結婚して虐げられてるわけではないけれども)。
みずち	1-322	最初、系図が書いてあったから小説か何かだと思っていたら普通の参考資料でした。1250年のフランス・トロワの街をモデルとして、その当時の人々の生活を細かく説明してくれています。薄いので読みやすいですが、文章がやや厄介なので中級者向けの本と言ったところでしょうか。中世ヨーロッパのリアルな生活に興味のある方は是非一読を
2008/08/16 12:53:53	322P (200分)	
エリカ様	1-95、173-256	興味のある話はあったが面白くないと思ってしまった。 時間がかかった割にはあまり印象に残る場面はなかった。
2008/08/06 17:07:49	179P (300分)	
	なし	
crystal	13-41	1250年におけるトロワの人々の平穏な生活を描いている。当時の大きな動きとして開墾と中世の鉱業の始まりがあげられる。まだまだ宗教が生活のいたる部分を支配しているような時代だが、かつて農奴だった人々が若干生意気になってきたなあ、と司教たちに思われ始めていたようである。
2008/07/16 21:35:19	29P (20分)	
SBM	1-88	まあ確かに当時の様子は伝わってくるけど...という感想。 教科書読んでみたいでした。何かひとつひとつの文は面白いけど文章として読むと退屈でした。
2008/07/16 09:10:41	88P (60分)	
モンモンモン	1-30	プロローグで挫折しました。高校の世界史で習った記憶はあるが、人物や都市の名前がたくさん出てきて、訳分からなくなり...断念。
2008/07/09 13:13:55	30P (40分)	
パトレーゼ	13-69	当時の生活が具体的な描写によって理解することができます。ただし、ひとつひとつ丁寧に例を示しながら進めていくスタイルなので、単調になりがちで最後まで読み進めることは難しいかもしれません。
2008/07/01 14:43:35	57P (30分)	
すみただ	42-69	ヨーロッパ中世の都市住民の生活を細かく説明している。生活の様子が具体的に描かれており、イメージしやすいと思います。文字密度が高く、あまり読めませんでした...
2008/06/29 08:10:36	28P (30分)	
yew	91-95, 173-179,216-218,	文章がいささか退屈なので、中世ヨーロッパの都市生活に個人的な関心を特にお持ちの方向けの本でしょう。
2008/06/16 15:01:22	15P (30分)	
	なし	
SOUTHERN (° °)!	1 - 6 9、1 5 8 - 2 5 6	タイトルどおり、中世ヨーロッパ(フランス)の都市の生活がいろいろな立場で書かれています。他の人のコメントのように、

2008/06/12 17:24:26	168P (120分)	中世ヨーロッパについてより深い都市人の目で見たい方はどうぞ
	写真とか序盤 2 章ぐらいまで	
は る ゆ き	1-69、257-322	中世ヨーロッパの歴史について、つらつらと単調に説明した本。資料としての本を目指したのか、作者の感情や意思といったものがすべて排除されている。しかし、作者がこの本を書いた目的意識までもが排除されているため、結局何を言いたいのかがさっぱり分からない。その上、参考文献リスト等もついていないため、資料としての価値があるかどうかも疑問である。中世ヨーロッパが好きでたまらない人以外には、はっきりいってお勧めできない。
2008/06/02 11:05:34	134P (120分)	
honyalala	173-215	ヨーロッパの生活と見て手にとった一冊、しかし、書かれているのはフランスのみで少し残念。まあラテン系の雰囲気は好きなので、その生活の一端を知れることは良かった。カテドラルの建築的な意味、象徴的な意味などは非常に興味深いところもあった。
2008/05/27 12:43:14	42P (45分)	
pocky	1-41、315-322	最初と最後しか読んでませんが、ヨーロッパの時代の流れを感じられました。ヨーロッパの歴史に興味のある人は読んでみてください。
2008/05/18 19:19:50	48P (30分)	
	315-322	
のべ	1-88、190-215	中世ヨーロッパの人々の生活が細かく描かれています。この時代の世界観が好きなのは、その細かい描写故に本に入り込めて面白いと思います。僕はこの時代の世界観が好きで、特に立ち読みポイントにした大聖堂の話はとても楽しかったです。
2008/05/17 21:23:01	112P (120分)	
	190-215	
人生迷走中	55-88ページ、190-232ページ、257-267ページ	昔の人が、どんな風に暮らしていたのか興味のある人は読んでみてもいいかも。けど、ちょっと退屈だった。
2008/05/13 13:06:53	77P (60分)	

決闘裁判世界を変えた法廷スキャンダル

著者名	エリック・ジェイ ガー	発行年	2007年
出版社名	早川書房	ページ数	277ページ
値段	2,100円	ISDN	978-4152088734

1386年フランス。そんな遠いできごとなのに、決闘場の柵に顔を押しあてて、二人の騎士が槍と斧と剣で殺し合うようすが、まざまざと見えてくる。

ストーリーの焦点に立つのは美しいマルグリット。自分に辱めを加えた狼藉者を絶対に許さない。「沈黙を破れば醜聞とさまざまな危険に襲われる」と承知で、敢然と行動を起こした女性。この時代にあって、自らを貫いた稀有な精神が死闘の砂埃のかなたに、まぶしく輝く。

ジャンヌ・ダルクより、凄いかも。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
ポンプUno	77-177、228-255	中世の決闘裁判に対する考え方とその進行手順が、1件の判例を元に克明に記されている。 「死闘」の章は緊迫感にあふれ、読み応えがあった。
2008/08/18 23:07:38	129P (120分)	

	9章	あとこんなことを書くのはどうかと思うが、4章は正直興奮した。
sugar	1-298	1 - 3章：('A`') 4章以降：(° °)
2008/08/08 11:31:26	298P (180分)	1 から 3 までは背景説明で教科書を読んでいるみたい。でも、4章から先は一気に最後まで読んでしまった。
	4章以降	映画版をぜひ観てみたいなあと思った。
男爵いも	1-255	自らの正義を証明するために命をかけて決闘をする話。結末を知らなかったので決闘のシーンはどちらが勝つのだろうとドキドキしながら読みました。
2008/08/05 04:36:38	255P (200分)	決闘はこのシーンは具体的でおもしろかったです。
	248-249	
crystal	9-10	すごくおもしろそうだなと思った。ところがご覧の通り2ページしか読んでいないが。。。
2008/07/16 21:46:20	2P (5分)	裁判と言っても、現在のような言葉による攻撃ではなく、剣と剣を交えたリアルな攻撃により正義を証明する時代のお話である。
ジョコビッチ	7-278	自分の名誉のために、決闘を行う。
2008/07/08 12:42:35	272P (150分)	決闘の結果で真実を決定するというのが、現在は認められるわけない。しかし、ジャン・ド・ガルージュと、ジャック・ル・グリの男気を感じた。
	8章	
knennn	9-60,110-147,228-288	ところどころに当時の情勢や中世の文化をはさみながら、決闘裁判にぐいぐい引き込みます。決闘の凄まじさを読むと2人にそこまでさせる騎士の名誉ってすごいなと思います。
2008/07/01 09:42:52	151P (120分)	
	228-255	
yew	7-274	決闘裁判という大変に中世的な制度がまずもって興味深い。
2008/06/27 18:12:19	268P (180分)	『決闘の結果は、神の意思にしたがい真実をあばくと広く信じられていた。』
	228-255	美しい女をめぐる、二人の男の壮絶な戦いっぷりが見どころです。
SEM	9-177、200-255	決闘のシーンは両者が自分の正義を示そうとすごい気迫が感じられて（かなり脚色が入っているのかもしれないけど）良かったと思います。
2008/06/23 21:43:32	225P (200分)	ただし両者の確執という背景を考えると本当にカルージュの主張したことが真実だったのかどうかがわからないというところで少し冷めてしまう感じもあります。
	200-255	
特になし	12-60,200-274	決闘のシーンの描写は生々しく緊迫感がありなかなか読み応えがありました。物語の内容はあまり濃くありませんが、中世の文化をしようという意味ではなかなか濃いのではないのでしょうか。
2008/06/23 17:26:11	124P (120分)	
	228-255	
じゃがいも	8章から最後まで	8章の、決闘当日朝の場面から読みました。騎士の武器や戦いの作法、宗教儀式、法律などの知識がふんだんに盛り込まれながらの、あの迫力のある戦いの描写は素晴らしい。訳した方も上手なのでは。
2008/06/02 11:06:04	100P (150分)	十字軍ってフランスからも出てたのね、そして中世の話だったのね。こんな世界史未履修疑惑な僕が、しかも途中から読んでも十分楽しめました、裁判の争点は人妻強姦疑惑。目次見る限り事件の場面も書かれてる(4章あたり)みたいなんですよ。ああ全部読みたい。
	8章	
たっきー	9-294	決闘が近づくにつれ緊迫感が増していきました。そしてついに決闘が始まり、決着がつけました。
2008/05/27 09:47:13	286P (240分)	このシーンを一番のお勧めです。この本を読むまでは、過去に合法的に決闘が、しかも判決を下すために使われていたとは知りませんでした。
	200-255	はじめの方は前ふりみたいな感じで、「いつ決闘始めるんだよ」とか思っていました。気がつけば一気に読み切ってしまいました。かなり面白い作品で、ついでに歴史も学べるというお得な本だと思います。
honyalala	1-76	15世紀くらいまで、裁判の判決を決闘で決めていされていたことが、非常にひきつけられるものがありました。それも、ヨーロッパのフランスで。時間がなく、多く読めませんでした。事件の真相とその決闘という2つの魅力的な視点は、おもしろい。
2008/05/20 12:40:01	76P (40分)	
	69-76	
パトロン革命	180-255	決闘裁判なんてものがあつたことすら知らなかったの、とてもおもしろかったです。男の意地とプライドがぶつかり合い、フィールドのなかでは身分など関係なく男として闘う、その潔さはとても感動しました。
2008/04/25 18:02:59	76P (90分)	裁判に負ける = 死だから人情を差し挟む余地はありません。決闘のシーンだけでもそんな駆け引きを楽しむことができるので、一読をおすすめ

	245-255	します。
メルハバ	1-10、180-298	裁判というと『勝訴!』なんて書いてある紙をかかげてるイメージが強いけれど、この決闘裁判ってのはそんなもんじゃない。ルールは簡単生き残ったほうが正義。勝てば官軍負ければ賊軍、命を、名誉を、家を賭けて男二人の闘いが始まる。
2008/04/24 17:55:16	129P (80分)	ここまで読むと血みどろのバトルもののイメージになりそうだけれど、中身は宗教や歴史に基づいたれっきとした歴史本。細かな描写までしっかりされていて、儀式の様子などが目に浮かぶようです。騎士道とか武士道なんて単語に反応しちゃう人におススメです。でもntr系が苦手な人は4章は飛ばしたほうがいいかもしれません。
	9-15	

[TOPへ](#)

鉄腕ゲッツ行状記 - ある盗賊騎士の回想録

著者名	ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン	発行年	2008年
出版社名	白水社	ページ数	177ページ
値段	2,500円	ISDN	978-4560026298

ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン。1480-1562、ドイツ。

いやもうすさまじい。日々これファイティング。槍をぶん回し、鉄炮をぶっ放し、殺し合い。右腕を砲弾で吹っ飛ばされながらも、義手を振り回して、たくましく天寿を全うした荒くれ男が、あっけらかんと語る自慢話の迫力に圧倒されるばかり。当事者のリアリティとは、まさにこのこと。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
knennn	1-123	各エピソードの最初にちょっとした説明があり、巻末の注釈も充実して るのですが、背景がよくわからなくて読みづらかったです。とにかく義 手がかっこよく、当時の技術に感心します。盗賊騎士というようにやっ てることは犯罪なのに、変なところで騎士道精神とか出すのがおもしろ いです。
2008/08/11 18:53:42	124P (100分)	
	70-73	
yew	1-22, 67-74, 191-195	盗賊騎士なぞという物騒な手合いがいたなんてねえ・・・。

2008/07/14 21:59:55	35P (30分)	「騎士道精神」みたいなもんは屁ほどにも思ってなかったに違えねえ。
	3-10	
鱒鮭	3-152	やや文章が固めな印象が濃く、読むのをためらいがちになりそうだが、巻末の説明やしっきりとした構成で読みやすさを出している。
2008/07/08 11:31:09	150P (200分)	と、まあそんなことより義手がやばい。立ち読みポイントが義手の凶面だけだったりするのは、それだけ義手がやばいってことだ。
	70-73	当時の技術でこれほど精巧な作りのものができるんだなあとはれぼれしてしまうほどの義手に 4つ。
つけめん	3-102	ゲッツ。
2008/06/17 11:32:49	100P (120分)	義手がかっこいい。
	70-73	今思うと、漫画「ベルセルク」のガッツってのはここからきてるのかな。義手だし。
ぜんまい	3-20, 82-152, 180-195	うーん、あついあつい。なるほど盗賊騎士である。
2008/06/04 18:47:27	105P (90分)	本の方はきわめて親切設計で背景知識がコンパクトにまとまって書かれたまえがき、それぞれの話をまとめてタイトルをつけた目次、各話の前にちょっとした説明もついており、どうぞ読んで下さいといわんばかりです。
	191-195	ドラクエ をプレイしたあの頃の気持ちを少し思い出すようです。

[TOPへ](#)

数量化革命

著者名	アルフレッド・W・クロスビー	発行年	2003年
出版社名	紀伊国屋書店	ページ数	352ページ
値段	3,360円	ISDN	978-4314009508

数を数えるって何？ アラビア数字、時計に地図、遠近法に楽譜.....いろんな近代的発明の根っこで起きた もののみかた 大転換をつかまえる。それはまさに 理系 なるものが誕生した瞬間なのだ。14世紀初めのヨーロッパ。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
みずち	103-283	絵画、音楽とか数字と何も関係なさそうな分野を数学的に解釈するという側面から見るとまた違った物事の捉え方ができて面白かった。ただ、文章が固めで内容も一回戻らないと飲み込めなかつたりしたので読むのにすごい時間がかかった
2008/08/16 12:09:45	180P (240分)	
	185	
メルハバ	7-11、171-283、303-307	世の中の物がどのようにして規格化されていったかという本。現代を生きる自分達にとっては当たり前になっている時間や数字がいかにして生まれたかがわかって面白

2008/08/14 17:02:36	123P (60分)	247-251	<p>かったです。自分は絵画や簿記に興味があるのでその辺を重点的に読みました。文系の人に熱弁するとひかれそうな内容ですが(笑)、自分の中での含蓄が広がった一冊でした。</p>
パトロン革命	1-75		<p>タイトルからして拒絶反応が出そうになったのですが、あえて読んでみました。いかにも理系って感じの文章で自分にとっては少し読みづらかったです。古い資料として絵画などが取り上げられていたのは興味深かったです。</p>
2008/08/14 15:58:29	75P (60分)		
パトラーゼ	7-101,147-214		<p>中世ヨーロッパ人がいかにして数字や数学と格闘してきたのかを教えてくれる本。まさに東工大生にうってつけなのではないでしょうか。章立ても時系列ではなくテーマごとに区切られていて読みやすい。乱読しやすい。おすすめは最初の方の章だけれど、音楽が好きな私としては、このテーマが独立してあるのはうれしい。私としては筆者のもってまわった表現(あるいは訳者のせいかな?)のために、たまに話の論点がどこにあるのか見失ってしまう。それを考慮して星ひとつとつ原点の4星とした。</p>
2008/08/12 11:15:28	163P (50分)		
アイを叫んだケモノ	103-127		<p>時間に対する価値観が年々変わってきているのでは?ということが浮かんできました。都市に住む人間という意味では全近代の人と同じだと思うのですが、時間感覚は確実に異なる、と。鐘を聞いたなら食事をする時間とか、家に変える時間とか。小さい頃にはそうだったけど、鐘すら気にしなくなって時間が抽象的なものになりつつあるなど実感。</p>
2008/08/07 15:09:43	25P (30分)	104	
わくわくさん	1-145		<p>今でこそ定量的な分析、ものの考え方が一般的になっているが、かつては定性的な方が重視されていたということに改めて実感した。そして、定量的な考え方の萌芽が商業に関連して発達してきたという事実には少し驚いた。現代では産学共同など、学問と産業との連携について話題となっていたりするが、それは最近になって生まれた概念ではなく、元々、学問と産業(商業)は密接な関係であったのだと思った。</p>
2008/07/31 17:20:13	145P (120分)		
しゅーくりーむ	103-169		<p>適当にページ開いてその近辺のはじめから読み始めました へえ数量化ってこんなことなんだみたいな感心するものばかり 結構面白いかも</p>
2008/07/31 14:18:20	67P (30分)		
つけめん	103-128,185-252		<p>個人的には時間の章が面白かった。 初めて時間を数量化した人間はほんとすげえと思うぜ。</p>
2008/07/22 15:06:20	94P (90分)	103-128	
crystal	7-11		<p>ヨーロッパ帝国が発展した理由として、やっぱりヨーロッパ人の能力も関係あるのでは?ということを書いていた。まあ、たしかに銃・病原菌・鉄でいったように、人類の進化の差は単に大陸が東西方向で長さが違っていただけから、みたいな説明では若干納得いかないよなあ、とは思う。</p>
2008/07/17 21:40:58	5P (5分)		
男爵いも	1-36,103-128,147-170		<p>数量化によって発展したさまざまなものについて書いてある。 数量化されてる今の世界が当たり前で、その前のことなんて考えたことがなかったので新鮮だった。</p>
2008/07/15 02:46:18	84P (80分)	142-170	
シマウマ	第1, 2, 4, 6, 8, 11章		<p>各章ごとに独立しているので章タイトルが気になるのをよんでいけばいいと思います。 さて、これからはどうしていけばいいのでしょうか?</p>
2008/07/14 18:49:14	155P (180分)	第4章 時間	
たっきー	173-283ページ		<p>本のタイトルから数学的な読みにくい本かと思っていましたが、意外とそんなことはなくて、わりと読みやすかったです。 いろいろな歴史を今までもっていかなかった観点から見られるようになった気がします。</p>
2008/07/08 12:53:25	111P (120分)		

	185-214ページ	
mizuhara	185-214	音楽を記す技術が開発されるうちに、人間が時間を記述することができるようになる。と言うお話です。結構難しい話も出てきますが、とても興味深いです。
2008/06/24 15:18:37	30P (20分)	
	185-214	
ポンプUno	37-70,147-169,185-214,285-302	この本に限ったことではないですが、この授業で様々なモノの歴史を知っていくうちに、現在の自分自身や、自分が所属する世界までもが以前より明確に見えてくる感じがします。
2008/06/14 00:08:22	103P (120分)	
特になし	1-36,147-169	数の成り立ちや、昔の人の数というものに対する考えが現代といかに異なっていたかなどが理解できる。
2008/06/10 12:41:23	59P (60分)	
	152-155	
は る ゆ き	1-70、103-145	現在では当たり前になっている数量化が、どのようにして生まれたのかが分かる。自分の研究内容と合致する部分があったので非常にすんなりと理解することが出来た。はっとする驚きを得ることが出来る本。
2008/06/09 13:23:09	112P (130分)	
	113	
knennn	7-101,147-214,287-307	数量化が現代において根本的なものとなっていることを考えると、その発見から広まりまでものすごい力を持っているなと思います。なかなか読み応えがありました。
2008/06/03 09:48:20	184P (150分)	
	147-169	
のべ	1-70、103-145	今のような徹底した単位系が生まれる前の話を中心に読みました。当時は科学と宗教が密接に関わっており、物の数え方や長さの測り方には宗教的な考え方が大きく関わっていた事を知れてよかったです。やや書き方が難しく、教科書や入試にでそうな典型的な説明文という感じでちょっと読みづらかったです。ただこれは、本のせいではなく僕の読書力の無さのせいだと思います。。。
2008/05/28 18:21:32	112P (120分)	
	103-127	
yew	1-302	今わたしたちが数をかぞえるときに使っている十進法は、それほど当たり前なのではないようです。ある考え方の枠組みの中にいる人は、自分がその枠組みの中にいるということをなかなか自覚できないものです。歴史を扱った本のすばらしいところは、自分がそのような枠組みの中に囚われているという事実を気づかせてくれることにありますね。
2008/05/20 12:35:45	302P (360分)	
	152-155	
pato	1-283	内容は他コメント参照. 個人的には西ヨーロッパの暦, 時間との関わり合いとその変化が興味深かった.
2008/05/19 22:53:50	283P (360分)	
	103-128, 129-145 4,5章	
みけもどき	1-169,287-302	現在私たちが普通に使っているものの見方(数量化と視覚化)は、実は当たり前ではなかったんだ!と驚いてしまいました。時間・数学・音楽・絵画など、さまざまな分野での数量化・視覚化が取り上げられているので、興味のある分野からどうぞ。
2008/05/04 12:34:50	185P (180分)	
	95-101	
SOUTHERN (° °)!	1-302ページ	数量化によってみえないものが見えてくる。昔の人間は「123たくさん」と数えるのが精一杯であった。ところが数学では実数という連続的な集合、数列、幾何学、0という概念が生まれ、「なんだかわからん」を数にして見える、分かるにしていく歴史があった。物事を理解しようとする生き物(人間)が手に入れた数量化という特殊能力の歴史、「みえないもの=神」を人間の物差しをつかって描きましょうという精神の歴史の発展はまだまだ続きそうだが、その出発点を眺めることで、人間の進化(の歴史)を実感できた。
2008/05/01 11:11:20	302P (400分)	
	71-283	
ivane	1-101ページ	重さや熱さが世界的に「どのように」数量化されたかについての本だと勘違いして手に取ったが、サブタイトル通りの「可視化・数量化という観点からみたヨーロッパの歴史」の本であった。「サービスの価値を数量化・可視化する」ことが最近の
2008/04/26 17:34:27	101P (120分)	

流行りのようだが、労働の価値が貨幣の流通によって数量化された歴史を思うと、それもあながち不可能なことではないのかと考えさせられた。

[TOPへ](#)

「世界地図」の誕生

著者名	応地利明	発行年	2007年
出版社名	日本経済新聞出版社	ページ数	257ページ
値段	2,400円	ISDN	978-4532165833

仏教は逆三角形、キリスト教はTO、中国は四角でイスラムは球.....地図の形の話です。中世の地図を4つ取り上げて、緻密に分析しつつそれぞれの世界観へアプローチ。ワールドワイドな視野の広がりと分かりやすく誠実な語り口に引き込まれる。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
みずち	1-39	とりあえずさわりの部分だけ読んでみたものの微妙な感じがしたのであとは地図だけ眺めました。興味がある人にはオススメですが興味がない人も最初の地図だけでも眺める価値はありますよ
2008/08/18 23:37:46	39P (30分) 地図	
しゅーくりーむ	1-39	授業で取り上げられていたのと、ピンクの表紙でカラフルだったので手にとって見ましたが うーん、授業でやったような楽しさは感じられませんでした 一人で読むんじゃなくて、みんなで読んで、"おー" "そうなん
2008/07/19 11:19:51	39P (20分)	

		だ”とか納得しながら盛り上げていけば面白いかも
crystal	1-4	地図の歴史において、その語りと表現は思想性・芸術性から科学性・実用性の重視へと変遷してきた。
2008/07/16 21:49:33	4P (10分)	ということで、地図がもつ歴史を題材にしたお話。私はあまり興味がないお話。
ロマンチストの資格	187-250ページ	前半は授業で解説されたので、カンティーノ図の革新性についての3章を読みました。
2008/07/15 13:04:56	64P (60分)	思想や世界観で描かれていた地図が、カンティーノ図ではポルトガルの大航海における科学的で国家の威信をかけた情報図として作られた様子が分かりました。
	189-192	
シマウマ	地図のみをばらばら眺めた	冊数稼ぎ(笑)に地図だけを眺めました。時代の経過と地図の正確さが必ずしも比例しないところが(まあ判りそうな気もしますが)実感しました。
2008/07/14 18:19:52	15P (7分)	
	最初のカラーページ	
パトレーゼ	187-238	ポルトガルが誇るカンティーノ図の革新性を述べた部分を読みました。当時ポルトガルはスペインと海上の覇権を争う立場にありましたが、スペイン製の地図との比較から、当時の両国のライバル関係やプライド等々が透けて見え、客観的であるはずの世界地図がとても俗っぽく感じられるところに逆に親近感を覚えました。
2008/05/21 13:26:44	52P (30分)	
		注文としては、もう少し扱う地図を増やしてほしい。写真や図を多く入れてほしいということです。また著者がいくらカンティーノ図に惚れ込んでいたとしても、それに後半2-3章を費やすのはさすがにやり過ぎだと思います。途中で飽きました。
すみただ	1-4ページ、14-39	ほとんど読めてませんが、この箇所だけ読んで感じたことを書きます。「京都・仁和寺蔵日本図」を書いた人に是非是非聞いてみたい。なんで科学的な技術が発達しなかった時代に、ここまで本州島のかたちを再現できたのか!? 凄い。具体的な形とかではなく、どうやって本州が島だということやその輪郭の概要を調べたのか。
2008/05/20 03:15:40	30P (30分)	本書の「経験世界の内側と外側」で解決できる凄さじゃないと思いました...!
のべ	1-29,42-138	法隆寺蔵五天竺図とヘレフォード図の所を読みました。一つ一つの地図について細かいところまで説明がされており、最初の地図と見比べながら見るのが面白かったです。
2008/05/06 20:06:48	124P (100分)	
	42-68	地図に見える当時の宗教・思想について深く述べてあるため、当時どのような世界観であったかが見えてきます。現代とは地図に対する思い・考え方が違うんだなと思いました。
みけもどき	1-39,188-226,262-271	思想性・芸術性重視の「世界図」から科学性・実用性重視の「世界地図」へと変化していく様子が書かれています。
2008/05/01 15:07:35	88P (90分)	授業で中世の世界図を扱ったので、カンティーノ図(筆者いわく世界地図の傑作である)についての説明を読みましたが、目に見えないものを描いていた中世のほうが豊かだったのかなあと感じてしまいました。
	262-271	
SOUTHERN (° °)!	1-39,188-271	濫読後のコメントで申し訳ありません。数量化された地図の文化圏の違いによる比較、傑作とはどういうできか、人間の世界を描き方が細かく分析されて述べられています。
2008/05/01 11:44:10	122P (120分)	
	1-39,262-271,	カンティーノ図について後半語られていて、最後の最後に伊能図が付け加えられているのですが、西洋的にだいたいとやられていない江戸で科学的実証的精神の伊能さんはやっぱ世界に誇る存在だなあとちょっと読み終わっておもいました。(笑)

1491先コロンブス期アメリカ大陸をめぐる新発見

著者名	チャールズ C . マン	発行年	2007年
出版社名	NHK出版	ページ数	610ページ
値段	3,200円	ISDN	978-4140812501

愕然の三部構成 常識を覆して超スリリング

愕然その1 コロンブス以前のアメリカ大陸には1億人もの人びとが暮らしていた 滅ぼしたのは病原菌

愕然その2 南北アメリカ大陸には2万年前から人が住み、ヨーロッパよりも早く文明が栄えていた

愕然その3 原住民たちは自らの手で積極的に環境を改変した アマゾンの密林も人の手で作られたもの

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
crystal	8-17	銃・病原菌・鉄と話題がかぶっている。特に病原菌が歴史に大きなインパクトを与えているという下りは全く同じである。私は半分気合で銃・病原菌・鉄を上下巻読みきったので、この本については深入りしないことにした。なぜなら、銃・病原菌・鉄によって私の気合は全て奪い取られてしまったから。。。。
2008/07/16 21:55:48	10P (10分)	
ぜんまい	3-17、539-583	

2008/06/24 13:01:43	60P (45分)	うーむ。かなり昔の話でした。
じゃがいも	21-54	アメリカの先住民は自然に手を加えなかったのか？ 太古の昔から変わらない未発達な生活をしていたのか？
2008/06/03 12:41:31	23P (90分)	そうではない，と言いたいらしい。 高度な文明が，少なくとも自然に手を加える社会が存在した。 文明が興り，成長し，衰退するという変化があった。 議論がしたいのか，文明を紹介したいのか，よく分からないので読みにくい が， 内容は面白い．続きが是非読みたい． むしろ続きを読んだ方，内容教えて下さい．
じゃがいも	特に無し．	「アメリカ大陸史の定説を変えた」(帯より)
2008/06/02 10:55:51		そもそも定説を知らない， なので1章から読んでみえています，面白そう． もしかしたら僕は古代文明モノが好きかもしれない．

[TOPへ](#)

砂糖の世界史

著者名	川北 稔	発行年	1996年
出版社名	岩波書店	ページ数	208ページ
値段	208円	ISDN	978-4005002764

アジアのお茶とカリブの砂糖がイギリスで出会って世界が変わる。砂糖を基軸にコンパクトにまとめて便利だが、みんな白人が悪いのさ、という岩波流善悪史観にやや疑問も沸く。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
sours	1-31, 62-90, 140-148, 156-176, 190-208	世界史に疎い自分でもそれなりに理解できる、やさしい世界史の本。砂糖を通して、世界が単一の経済で繋がる様を実感できる。
2008/08/18 14:43:46	109P (90分)	
わくわくさん	1-100	砂糖を通して世界史について知れる本。時代で言うと、大航海時代以降のおよそ500年あたり。かつては貴重品であった砂糖が普及するにつれて、プランテーション等の問題も起こっていった。
2008/08/17 04:07:58	100P (60分)	

		最近では「フェアトレード」も注目されているので、そういう意味では読んでおいて損はないと思う。
シマウマ	どこか忘れた	
2008/08/12 20:45:19	50P (30分)	こんにゃくは面白かったがこっちは真面目すぎてそんなに面白くなかった。やっぱ岩波ですよな。
読書中	1-138	
2008/08/12 18:00:24	138P (120分)	文章が平易なので、読みやすい。紅茶に砂糖を入れるようになった経緯が意外で面白かった。世界史に詳しくあったら、もっと楽しめたかもしれない。
pato	2-15, 12, 13	
2008/08/01 22:11:22	16P (20分)	砂糖の話。インドネシアあたりが原産であることを初めて知った。薬として用いられていたことには驚いた。
hiro	12-59	
2008/07/22 16:23:33	48P (20分)	今となっては必需品の砂糖も昔は貴重なものだったんだとあたられて感じた。そして、必需品になるにつれて、モノカルチャーを生み出し、プランテーションで大量生産するために奴隷貿易が始まるなど、歴史の重要な局面に砂糖が関わっていたことを知った。
	34-59	
pocky	1-208	
2008/07/22 11:55:32	208P (120分)	砂糖の歴史が黒人奴隷の歴史と重なることを知り驚きました。ヨーロッパではお茶に砂糖を入れる習慣から砂糖が庶民に広まったと書いています。日本にはそのような文化がないので、現在でも欧米人ほど甘い食べ物を食べないのかなと思いました。
	38-44	
Nimrod	第3, 5, 6章	
2008/07/15 11:15:49	74P (50分)	奴隷云々のくだりよりも、当初は砂糖がどのような目的で用いられていたのか、それが薬や保存料としてだった、というあたりの方が興味深かったです。字も大きく、文体も平易なので読みやすいのですが、その一方で様々なレトリックが上滑りしてしまっている印象を受けます。対象年齢、中学生～高校生という感じではないでしょうか。
	第3章	
yossie	1-206	
2008/07/10 09:38:38	206P (180分)	「砂糖」というモノを通じて世界史を見ると、これが本書の目的であり特長です。具体的なモノから歴史を眺めていくことはとっつきやすく、また各地の文化を知るためのきっかけとなり、読みやすいと思います。しかし、文体と内容の浅薄さが気になったために評価は割りと低めです。
	2-10ページ、140-153ページ、202-206ページ	
ロマンチストの資格	1-208ページ	
2008/06/23 12:15:21	208P (150分)	世界史を砂糖から切る。大航海時代、奴隷貿易、プランテーション、イギリスの紅茶文化、アメリカの独立・・・等の歴史に深くかかわる「砂糖」の存在。砂糖の「甘み」の裏にあるその「重み」を感じることができる。ジュニア新書なので読みやすくわかりやすいので、物から見る世界史入門にはよさそう。
	34-59ページ	
白猫	1-153	
2008/06/09 14:18:18	154P (120分)	砂糖の話よりも、奴隷の話に興味を持った。砂糖を作るために、大勢の奴隷が犠牲になっていたことが分った。一部の人間の贅沢を大勢の人間が支えているという構図は、昔も今も変わらないと感じた。
	52-59	
Www	1-60, 140-153	
2008/06/03 12:52:47	74P (40分)	世界史の知識不足か、いままでプランテーションの中に砂糖という概念がなかった。海賊の話など直接関係ないことも多く含まれていて楽しかった。

	2-10	
camel	2-31,92-140	本当に世界史の授業みたい。でも高校の時の教科書よりは全然おもしろい。甘いものっていいですね。
2008/06/02 12:58:50	79P (90分)	
	99	
すみただ	12-198	砂糖の世界史という題名だが、砂糖という媒介を使って、近代の世界史の流れを理解することができる。ただもうセンター試験受けることはないですが。社会階級、貿易、奴隷の関わりなど。あと、文字密度が低くて読みやすく、ページ数を稼ぐのにお得な一冊だと思います。 個人的によく耳もとのリンパ腺が腫れる気がするので、この本に書いてあった、当時信じられていたチョコの沈静化の役割について、本当かどうか今度大量にチョコ食べてみようかな...
2008/05/27 01:42:24	187P (200分)	
	134-136	
P-ball	2-10 , 113-188	砂糖といった身近なものが世界史を動かすような働きをしてきたことに驚きました。世界史に疎くても「へ～」と思いながら読めましたが、世界史を学んでいけば、また違った視点から読めるんじゃないでしょうか。「砂糖のあるところに、奴隷あり」ってのは結構衝撃的でした。
2008/05/20 01:03:10	85P (60分)	
	170-176	
contax139	62-138	砂糖が歴史を変えたといっても過言ではないと感じられた一冊でした。 時に薬として、時にステイタスシンボルとして、時代ごとにその立場を変えながらも人々に重宝がられる砂糖の存在。特にイギリスのコーヒー・ハウス（英国ティーではなくコーヒーを飲んでいる）を拠点とした文化がこの世にもたらした影響はコーヒー1杯たったの1ペニーという値段とは比べ物にならない価値があること。
2008/05/13 12:20:40	76P (60分)	
	94-103	
パトロン革命	1-10,139-154,177-200	タイトルの通り、砂糖というものが誕生してから現在に至るまでの歴史が描かれています。とびとびで読みましたが、歴史の教科書を砂糖という角度から書き直したような作品です。高校時代世界史があまり好きじゃなかった自分にとっては目からウロコの作品でした。もちろん、砂糖中心に描かれている歴史なので連続性には欠けているとは思いますが、歴史を違った視点で捉えるという観点では自分にとってとても新鮮でした。印象的だったのはやはり奴隷の存在で、砂糖＝プランテーション＝奴隷、比較的連想しやすいものでしたが、作品を読んでみて改めて実感しました。口に入れると甘いけどたくさんの人の血と汗からできているのだと思うと、これからは少し違う味に感じるかもかもしれません。
2008/05/10 13:02:09	50P (60分)	
	145-146	
メルハバ	2-10、140-153、178-188、202-208	この年だと「甘いものは嫌い！」って人もいるけれど、小さいときに嫌いな人はいない『砂糖』。スーパーなんかで安売りしている砂糖だけれど、昔は貴族の召し物だったり、薬として使われていたり今じゃ考えられないものだったと知って驚きました。また、砂糖を中心にして奴隷が生まれ、法律が作られ、工業が発展したという事実は非常に興味深かったです。

2008/04/26 17:23:14	41P (20分)	近代になりダイエットの文化の芽生えや人工甘味料の登場によりその歴史的役割を終えようとしている砂糖。砂糖の味は甘いけれど、砂糖の歴史は甘くないようです。
	2-10	
鳩会社元社員	1-31,61-138,155-176	誰からも好まれることで「世界商品」となった砂糖と一緒に、世界史の流れをみていこうという一冊です。
2008/04/24 17:52:25	131P (180分)	紅茶と砂糖の組み合わせは今や当たり前のように思われますが、このトンデモナイ組み合わせが生まれたのが、実は(上流階級の)イギリス人の見栄っ張りな性格がきっかけというのは、少し残念な気がします。
	76-80	とくに、 ダイエット中で甘いものを我慢しているあなた。 甘いものは嫌いだ！ というあなた。 ぜひ読んでみてください。

[TOPへ](#)